

学校教育ビジョン ◆学校教育目標 「わたしも みんなも 幸せになる学校をつくる人になろう」 〈目指す児童像〉・自分も人も大切にできる子 ・自ら学ぶ子 ・くじけずやりぬく子 〈目指す教師像〉・子どもたちに寄り添う教師 ・令和の日本型学校教育構築に向け挑戦する教師 ・様々な人々と協働できる教師 □確かな学力（知）： ○「個別最適な学び」「主体的な学び」の推進 ○「協働的な学び」「対話的な学び」の推進 ○子どもに委ねる学びの推進、自立した学び手の育成 ○探究的学びの創造 □豊かな心（徳）： ○I（愛）メッセージ ○自己肯定感・自己有用感・自己効力感の育成 ○生徒指導の4つの視点をすべての教育活動に □健やかな体と心（体）： ○よく遊び、よく学び、ぐっすり眠れる子 ○自分の健康（体・心）を自分で守れる子 ○レジリエンス、ストレスマネジメント力を育む 【家庭・地域・関係機関等との連携】 ・地域とともにある学校づくり ・積極的な情報発信 ・地域の「人・もの・こと」を生かした学習、ふるさと山代への誇り・愛情を醸成する学習 ・保小中の縦の連携や交流、円滑な接続 ・教育委員会、教育総合支援センター、福祉部局等、関係外部機関との情報共有や連携										
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	個別最適な学び、協働的な学びの 一体的充実を図った授業作りを中 心に研修をすすめ、児童の主体的 対話的で深い学びを実現するた めの授業改善を図る。	魅力あるゴール設定をもとに授業をデ ザインし、教科のねらいの達成と児童が 自分の学びを調整しながら学ぶよさを 実感できる授業づくりを工夫する。	教務主任 研究主任	昨年度の反省を生かし、魅力あるゴール設定と導 入の工夫に重点をおき、実践を積み上げる1年間 にしたい。研修を通して、単元構想の仕方や委ね る場の設定、教師の手立てや準備物を検討する 必要がある。	【成果指標】 魅力あるゴール設定をし、個 別最適な学び、協働的な学び の一体的充実を図った授業を 行っている。	魅力あるゴール設定をし、個別最適な 学び、協働的な学びの一体的充実を 図った授業を行った教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート7月・12月 C、Dの場合、授業作りについ て再度共通理解を図る。			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	きまりを守り、落ち着いて学習に取 り組める子どもを育てる。	生活及び学習のきまり(山代ルール)の 定着に向け、子どもたちの意識を高め る。また、教職員は生徒指導の4つの視 点を意識し、全校児童に一貫した指導 を行う。	生徒指導主事	授業規律や集団ルールを守ろうとする児童 がほとんどだが、規範意識の低い児童もい る。また、教職員も、生徒指導の4つの視 点、特に、安心・安全な学校づくりへの意識 を高くもつ必要がある。	【成果指標】 児童は、生活及び学習のきま り(山代ルール)を守っている。	山代ルールを守っている児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童アンケート 7月・12月 C・Dの場合は、指導方法を再 検討する。			
③キャリア教育・進路指導	自己の役割を理解し、見通しを持っ て主体的に活動する子どもを育て る。	児童が自分の仕事に責任を持って取り 組み、係・委員会・縦割り活動等の企画 や運営に自ら参加し、行動できるように 指導する。	キャリア教育 担当 児童会担当	自己の役割を理解し、与えられた仕事に取り 組む児童は多いが、見通しを持って自主 的に行動できる児童は少ない。	【成果指標】 見通しを持って、自主的に自分 の仕事や活動に取り組んでいる。	係や委員会活動に自主的に取り組むこ とができた児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童アンケート 7月・12月 C・Dの場合は、指導方法を再 検討する。			
④保健管理	児童の体力の向上や運動習慣の 確保を目指す。	体育の導入時に「スポチャレいしかわ」に取り 組み、体力の向上を図っていく。	保体部 (保健主事)	昨年度の体力テストの結果より、日頃からの運動 習慣が著しく低下しており、体育の時間を活用し て運動量を確保することが課題にあげられる。	【成果指標】 スポチャレいしかわで全学級チャレ ンジ部門においてブロンズを超え る。	スポチャレいしかわのチャレンジ部門でブロン ズを超えた学級が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	スポチャレいしかわ 入力 フォーム C、Dの場合は取り組み方法を 再検討する。			
⑤安全管理	教職員の災害時の指導力・実践力 を高め、児童の災害に応じた身の 守り方や避難方法についての理解 を深め実践力を高める。	教職員の災害時における指導力・実践 力を高め、児童の災害時の身の守り方 や避難方法についての理解を深め実践 力を高めるために避難訓練の事前・事 後指導を工夫する。	教頭	児童は災害についての大まかな理解はでき ているが、災害に応じた命の守り方や避難 方法等について具体的に理解し、適切に判 断・行動する力が必要である。	【成果指標】 避難訓練の事前指導・実践・事後指導を通し て災害への理解を深め災害時の対応力が 身についたと答える教職員・児童の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	避難訓練の事前指導・実践・事後指導を通し て災害への理解を深め災害時の対応力が 身についたと答える教職員・児童の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員・児童アンケート 7月・ 12月 C・Dの場合は、速やかに改善 する。			
⑥特別支援教育	こまめな情報交換やニーズの把握 に努め、個に応じた支援の工夫と 研修の充実を図る。	困り感のある児童に対し、校内支援委 員会、専門相談に基づいて継続した支 援を行う。児童の実態や教職員のニー ズに合わせて、研修内容や教育支援員 の配置を工夫する。	特別支援教 育コーデ ィネーター	校内支援委員会で支援の方法を話し合っ ているが、支援を必要とする児童の数が多く、 より効果的な支援体制や方法を検討する必 要がある。	【成果指標】 児童の実態を把握し、校内支 援委員会、専門相談などを活 用して、個に応じた支援ができ るように努める。	校内の特別支援体制とその効果に満 足している教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート 7月・12月 C、Dの場合は、体制や指導の あり方を再検討する。			
⑦組織運営・業務改善	協働と業務改善の意識をもち、業 務の効率化、機能化、平準化を進 める。	各部会や担当者、学年間において分担 できること、削減や効率化できることを 考え、業務改善を進める。	教頭	担当業務によって時間外勤務時間の偏りが 見られる。各部会、担当者、学年間で、協働 的に業務を進めるとともに、業務や行事の 精選、効率化を意識して業務改善を行っ ていく必要がある。	【成果指標】 組織的・協働的に業務を進め ながら、業務改善に努めること ができたか。	組織的・協働的に業務に取り組み、業 務改善に努めたとする教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート7月・12月 B、C、Dの場合、組織体制や 運営方法について再検討す る。			
⑧研修	校内研修の充実を図り、教職員の 授業力向上を図る。	授業作りや学級の土台作り、効果的なI CT活用などの校内研修・OJTを行い、 教職員の授業力向上に向けて内容を工 夫する。	研修部	今年度の研究の柱である個別最適な学びと協働 的な学びの一体的充実をめざし、研修を行って いく。年間を通して授業作り研修や授業の土台作 り研修を設けるとともに、その他必要な研修・OJTを 設定していきたい。	【成果指標】 授業力向上を目指して、積極 的に研修に参加している。	校内研修・OJTが授業改善に生かされ たと感じた教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート7月・12月 C、Dの場合、研修内容や研修 頻度について再検討する。			
⑨保護者、地域との連携	保護者やPTA、地域の方々との連 携を図り、積極的に地域資源を生 かした学習活動を行う。	PTAやCS、山代地区会館、子ども会 等、地域の方との連携をさらに深め、地 域の人材・環境等を生かした授業づく りを推進し、地域資源シートを作成し効果 的に活用できるようにしていく。	教頭 各担任	昨年度より、CSを有効活用した学習活動に 少しずつ取り組んできたが、さらに、地域人 材や地域教材の活用を積極的に進めたい。	【成果指標】 地域資源シートを作成・活用し ながら、地域の人材・環境等を 生かした学習活動を実践した か。	地域の人材や教材を授業や行事で活 用できたと答える教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員アンケート7月・12月 C・Dの場合は、指導や取組内 容を見直す。			
⑩教育環境整備	情報モラルを守り、chromebookを 学校や家庭でも効果的に活用でき る素地をはぐくむ。	情報教育年間指導計画にそって、情報 モラルについて考えたり、家庭で児童と 保護者が情報モラルについて一緒に考 える時間を設ける。	情報担当	学年が上がるにつれ、ICTをツールの一つとして、必要な 時に自分たちから選んで進んで使えるようにはなってい きた。一方で、chromebookを学習に関係のないことに使っ たり、ルールを守れなかったりする児童がいる。今後、家 庭へのchromebookの持ち帰りも見据え、児童に情報モラ ルを身につけさせていきたい。	【成果指標】 保護者の方が家庭で児童の情報 端末の活用について管理で きているか(3年生以上の児童)	家庭で児童の情報端末の活用につい て保護者が管理できていると答える保 護者が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	情報モラルについて考える フォーム6月・11月 C、Dの場合は、学校での情報 モラルを徹底する。			

学校関係者評価	
---------	--